

令和2年11月

傾聴ボランティアステーションだより

『ひだまり』 NO. 9



豊島区社会福祉事業団

＜新型コロナウイルス禍の中での傾聴ボランティア活動の状況＞

すっかり秋も深まり、朝晩は冷え込んできました。

新型コロナウイルスで、これほど長い期間活動停止になるとは！気軽に人と交流できた8ヶ月程前の日常が嘘のようです。感染の第3波を迎えて、高齢者は感染すると重症化しやすい状況ですので、社会福祉事業団高齢者施設でも、ボランティアの受け入れを再開できない状況です。

ボランティアさんからも、外出を控えて家に籠もっていて人と話す機会が少なく、気持ちの発散ができなくて鬱々しているとか、感染が怖くて行動を自分でセーブしていついかなにか気が晴れないとか、声がきこえてきます。

このままでは、何年も傾聴ボランティア活動が出来ないままになってしまうのではないかと危機感を感じています。なにか出来ることから方法を考えてやっていきたいと思えます。

＜傾聴コーナーひだまりの新設と再開＞

○11月12日 豊島区立東池袋フレイル対策センターに傾聴コーナー「東池袋ひだまり」を新設しました。

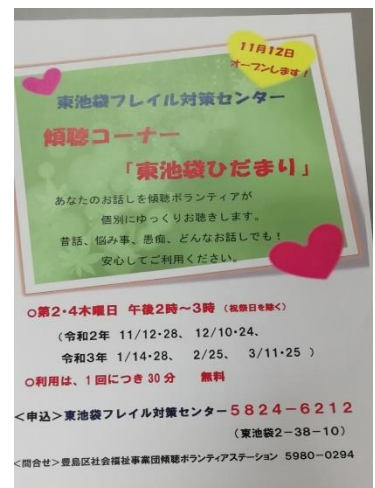
(毎月第2・4木曜 14:00~15:00)

○10月15日から傾聴コーナー「菊かおる園ひだまり」を再開しました。(毎月第1・3木曜の13:30~15:00)

「傾聴コーナーひだまり」では、感染対策をして、各回4名の傾聴ボランティアさんが交代で傾聴活動をしています。

○個人宅訪問しての傾聴は、まだ再開できていません。

高齢者の方を対象にしているので慎重にならざるを得ませんが、なんとか再開出来ないかと検討しているところです。



＜令和２年度 傾聴ボランティア養成講座開催＞

今年も11月4日から12月9日まで全6回、「傾聴ボランティア養成講座」を実施しています。

会場での密を避けるため、参加者を例年の半数に減らしました。その上で感染対策をして、皆さん熱心に学ばれています。



＜傾聴ボランティアフォローアップ研修&交流会の実施＞

延期していました「傾聴ボランティアフォローアップ研修」を10月29日に午前午後の2回、15人ずつで開催という形で行うことができました。

久しぶりに顔を合わせて、皆さん、思わず笑顔、まずは、コロナ禍での近況を語り合い、そのあと、傾聴スキルを高めるよう復習しました。

傾聴の基本姿勢、「バイスティック7原則」のポイントのおさらい、活動するとき心がけることなどを思い出し、活動に活かせるように確認しました。

振り返りでは、新聞の投稿記事（コロナで遠方の孫の結婚式への参加を控えざるを得なかった時の気持ちを語った話）を題材にして、話し手の気持ちを考え、どう言葉を返すか、意見を出し合いました。

コロナ禍での傾聴活動についての質問も出されました。

目の悪い方には、今までは傾聴の時、手にふれたりして、耳元に近づいて話したりしていたが、コロナで困難になりどのように対応したらよいのでしょうか？

PLAの黒田講師からは、「焦らずに、今出来ること、方法をさぐるしかない。好転することを待ちつつ。ボランティアをしている仲間同士で話すだけでも、ほっとする。自分をメンテナンスすることが大事」とのアドバイスがありました。



＜日本経済新聞コラムに傾聴ボランティアステーション掲載される＞

8月13日の日経新聞夕刊に傾聴ボランティア河本純さんの活動についてと傾聴ボランティアステーション（写真付）の記事が載りました！！